

ウガンダにエイズ子ども病院

東アフリカ・ウガンダでまん延するHIV（エイズウイルス）から、子どもたちを守るべくアジア医師連絡協議会（AMDA、本部・岡山市、菅波茂代表）は14日までに、現地に子ども病院を建設する方針を決め、ウガンダ医師会など（具体的な調整に入った。本

紙の「飢餓・貧困・難民救済キャンペーン」で同国のエイズ被害を取り上げたところ、AMDA内で本格的な子ども病院建設の計画が持ち上がった。来年度から5年計画で、運営は同医師会と協力してあたる。日本のNGO（非政府組織）が、アフリカのエイズ対策のた

AMDA建設へ

現地医師会と5カ年計画

めに本格的病院を建設するのは初めて。アフリカで活動するNGOや医師の訓練センターも置く。

ウガンダでは1982年以来、HIV・エイズが拡大。現在患者数約5万人。感染者はその数十倍にもなり、20代、30代では4人に1人が感染しているといわ

れる。母子感染率も20%を超える、感染した乳児は80%が2歳までに死亡する。

AMDAはこの現状を救おうと95年4月、首都・カンプラに現地事務所を設置。ビクトリア湖畔の小さな村に、週1日、医師が巡回する小さな診療所を建設した実績がある。

病院では、エイズを中心にした治療のほか、エイズ予防教育、エイズ治療に対応できる医師・看護婦の養成も行う。運営はAMDAから派遣された医師と、ウガンダ医師会の医師が共同で行う。今年度中に建設地を決めて、来年4月以降に着工したいとしている。

また、病院内に、アフリカ人の手でアフリカを救おうとウガンダ医師会などが中心に結成を決めた「アフリカ多国籍医師団」の事務局を設置する。【小倉 孝保】

◇ 今年のキャンペーンでは国連機関などへの寄付に加え、ウガンダの子どもたちをエイズから救うためのプロジェクトをサポートします。救済金は左記へ郵便振替か現金書留で送金いただくか、直接ご持参下さい。

〒530-51 大阪市北区梅田3の4の5、毎日新聞大阪社会事業団「海外救済金」係（郵便振替・00970-9-12891）

NGO訓練センターも